

## 三浦綾子さん&クリスマス 2024 特別キャンペーン

～贈ると必ず、喜ばれます。皆さん、にっこり！～

# したきりすずめのクリスマス

作：三浦綾子 絵：みなみななみ  
推薦のことば 三浦光世・星野富弘



定価 2,420 円 (税込) カラー 80 ページ (第 4 刷)

三浦文学の真髄を、誰でも分かる「舌切り雀」をベースに童話化！ 人間はいかに生きるべきか、どきりとするエンディング・渾身の一作！

三浦綾子全集(主婦の友刊)にタイトル作品として収蔵されてはいるのに、三浦綾子文学の約 90 作品の中で唯一、単行本化されていなかった幻の作品が、初の単行本化！

「三浦綾子作文コンテスト」の課題図書にも選ばれました！

「ノンクリスチャンにも、クリスチャンにも、子どもにも大人にも、贈ると必ず喜ばれます。みなみななみさんの優しい絵と共に、ストーリー化の賜物にあふれた三浦綾子さんのドキリとする展開。その中に、キリストの福音の真髄があり、心に染み入ります。素敵で豪華感もある絵本で、最高のクリスマスプレゼントです。たくさんの皆さんに、贈っています。」(東京 Aさん)

## 三浦光世さん 『したきりすずめのクリスマス』 作品の中から見える綾子の思い」より

この作品について、綾子は次のように書きのこしている。

「1981年の仕事の中で、特筆すべきものに『珍版舌切雀』（したきりすずめのクリスマス）と題する戯曲がある。…私には初めての脚本で、それなりに力を入れたつもりであった。

…私は本来の『舌切雀』の物語に、クリスマスをかからめ、イエス・キリストを登場させた。」（三浦綾子著『明日をうたう』）

…綾子は、この作品を、とても喜んで書いてたと記憶している。日本の童話がベースということもあり、子どもたちへの特別な思いも込めて書いていた。綾子は、子どもたちへの思いを以下のように記している。

「…わたしはやはり、もっともっと子どもたちによい童話を与えてやりたい。特に心に沁みとお



る物語を。よく、「時代がちがう」とか、「今の子どもたちはそんなものは好まない」などと聞くのだが、子どもたちの魂は、大人が考えているより、はるかに柔らかく、みずみずしく、美しい夢を吸収できるものなのだ。」

その執筆後、27年あまりの時を経て、『したきりすずめのクリスマス』として出版されることになったことを、私は心からうれしく思う。

## 星野富弘さん 推薦のことば 『したきりすずめのクリスマス』を 読んで」より

…作品を読ませていただき、私はまず「面白い!」と思った。日本人なら誰もが知っている昔話に、なんとイエス・キリストを登場させて、日本人になかなか理解できない罪の問題と救いの素晴らしさを、大人にも子どもにもわかるようにやさしく語りかけてくださっている。

36年前、けがをして入院し、三浦綾子さんの本を読み続けた頃、私は背中をバンと押されるようなかんで、聖書を開いた。私も、三浦綾子さんのように生きたいと思った。

…この作品には、綾子さんらしいなあと感動し、うれしくなるタッチが随所にちりばめられている。

…綾子さんがこの劇に出られるとしたら、きっと「私、欲張りばあさんの役をやるわ!」と、思われながら、楽しそうに執筆されたのではないか



©いのちのことば社

なあ。綾子さんのいたずらっぽい笑顔が、私の心に浮かんできた。

…私の罪がつかまっている大きな重いつづらを腰を曲げて背負い、雪の山道を登って行くイエス・キリストの姿が、読み終わった今でもまぶたに残っている。

（上記の三浦光世さん、星野富弘さんの原稿全文は、『したきりすずめのクリスマス』に掲載されています）

